

エイズ孤児支援NGO・PLAS 事業・決算報告書

2008年度

2008年4月1日—2009年3月31日

ごあいさつ

アフリカの人々がエイズやエイズ孤児のために活動する姿に共感し、彼らとともに歩みたいという思いから、2005年12月にエイズ孤児支援NGO・PLASを設立し、みなさまに支えられて4年目を迎えました。

2008年は、初めて有給で、国内そして現地に1名ずつスタッフを置き、事業も組織も大きく成長しました。現地のケニアとウガンダでは、地域の人々の主体性や協力を大切にして、地域でエイズ孤児を支えるという方針の下、活動を行っています。

ウガンダでは新たに小学校の支援を開始し、現地団体や住民らの協力を得ながら建設を進めています。また、ケニアでは2007年末の大統領選挙後の混乱により、一時スタッフが入国できないという苦しい状況に追い込まれ、もどかしい思いをしてきましたが、農業事業も立て直し、さらに、いよいよ母子感染予防事業を始めるに至りました。お母さんと赤ちゃんの命に関わるこの事業は、当会設立当初は人材・資金・経験不足から取り組むことができず、長い間、実施への思いを温めてきました。設立当初には考えられなかったような事業を、実現できるステージに立つことができるのも、皆様のご支援、応援があるからに他なりません。深く感謝申し上げます。

アフリカのエイズやエイズ孤児の問題は一筋縄ではいかず、ゆっくりとしかし着実に歩みを進めていかなければなりません。私たちは、アフリカの人々とともに、この歩みを進めていく所存です。みなさまの一層のご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

エイズ孤児支援NGO・PLAS代表理事
門田瑠衣子

Our Vision

エイズによって影響を受けた子どもたちが差別されることなく活躍していける社会、そして全ての人がエイズの脅威から解放される世界を目指します。

Our Mission

プラスはこのビジョンを実現する為に、

1. エイズ孤児の保護・サポート
2. エイズ孤児が生まれる悪循環を断ち切る
3. エイズ孤児について知らせるこの3つを柱に活動します。

Contents

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 ごあいさつ
Our Vision
Our Mission | 5 国内事業 世界エイズ孤児デー
キャンペーン |
| 2 海外事業 ケニア | 6 国内事業 世界エイズデーレッドリ
ボンフットボールプロジェクト |
| 3 海外事業 ウガンダ | 7 組織運営 |
| 4 海外事業 ワークキャンプ | 8 会計 |

KENYA

ニャンザ州ウゲニャ県ウクワラ

地域概要

この地域はケニア共和国で最もHIV感染率が高いニャンザ州に位置しており、HIV感染者数がケニア共和国全体で約8.3%であるの
に比べ、この地域のHIV感染率は2002年の
時点で38.4%です。住民の多くが農業に従
事しており、住民の約6割が絶対的貧困層と
言われています。



Agriculture

農業事業

この地域のマシワ小学校にて、2007年2月より農業事業を開始しました。同校が継続的に農業を営み、その収益をエイズ孤児支援に使用しています。510名の全校生徒のうち、149名が孤児、その多くがエイズによって親を失っています。2007年末の大統領選挙を受け、混乱のため学校は一時閉鎖。プラスのスタッフは治安悪化のため2008年10月まで入国できずにいました。学校閉鎖により予定よりも大幅に収穫が減ってしまいましたが、この事業により10名の子どもが制服の支援を受けました。

HIV / AIDS

エイズ啓発・母子感染予防事業

2009年1月、母子感染予防についての研修を実施しました。これまでは一般的なエイズ啓発を実施してきましたが、協力先のNGOや地域組織、保健省関係者らと協議を行う中で、エイズ啓発の中でも特に母子感染についての啓発が極端に少なく、またエイズ啓発を行う地域組織のメンバーでさえも正しく十分な知識がないことが分かりました。そこで、母子感染予防に特化した研修を地域組織のリーダー向けに開催し、約20名が参加しました。研修後に、参加者らが自発的に各区でグループを作り、月に1~2回程度の母子感染予防啓発活動を地域で行うようになっています。彼らの活動を後追いつくフォローアップの研修や啓発活動のモニタリングも行っています。



参加者の声

- 母子感染予防の重要性を学んだ。
(28歳、男性)
- 妊産婦検診を受けるよう勧めるためのカウンセリング方法を学んだ。(38歳、女性)
- HIV検査を受け、自分のステータスを知りたいと思った。そうすればより良く生きられるかもしれない。(23歳、女性)
- どの情報もとても重要で、自分たちが地域住民を啓発することを通じて、HIVの新規感染を減らし、子どもや母親の命を救う手助けができる。(22歳、男性)
- またワークショップを開いて欲しい。
(45歳、女性)



UGANDA

ルウェロ県ガルウェロ地区

地域概要

ウガンダ共和国ルウェロ県ガルウェロ地区は1980年代に国内の混乱の中で、多くの住民が同じウガンダ人により虐殺され、財産や家畜を奪われ、子どもが少年兵や性的搾取の対象として拉致されたという悲惨な経験をしている地域です。20数年経過した今も、エイズ孤児を含む孤児が多くいます。



Construction

学校教室建設

エイズ孤児たちが教育を受けられない状況をどうにか改善しようと、有志の地元住民によって2007年に開設されたBasajjansolo Memorial Training Centre小学校（以下BMTC小学校）の学校教室建設支援を行いました。同学校は未だ教室が不足しており、子どもたちが安全で快適な環境下で教育を受けられるよう、新規教室の建設を行いました。また、これを契機に、学校施設の整備をすすめ、学校の存在を地域に定着させ、生徒を増やすことを目指しています。2008年9月、そして2009年2月にBMTC小学校の教室をそれぞれ1教室ずつ、計2教室を建設しました。



学校の今後

現在は幼稚園及び小学校のみで構成されていますが、将来的には職業訓練所を併設する予定です。（この職業訓練所については、プラスが今後支援を行うかどうかは未定。）卒業後、自立した生活を生徒が営んでいけるよう、小学校高学年から職業訓練を学校のカリキュラムに組み込み、卒業後に中等教育に進むことができなくても、職を得たり、自分たちで職を創出したりできるようになります。学校でのこのような取り組みは地域にも例に見ない、とてもユニークな試みです。



HIV / AIDS

エイズ啓発・母子感染予防事業

学校保護者や地域住民にHIV/エイズやエイズ孤児に対する理解を深めてもらうことを目的とし、2008年9月にエイズ啓発ワークショップを開催しました。地域団体によるエイズ啓発の歌や踊りが披露され、HIV/エイズに対する差別・スティグマについての講義、コンドームプロモーションなどが行われました。無料HIV検査では、43名が検査を受け、うち4名が陽性であることが判明。陽性であると判明した人には、カウンセリングや医療機関の紹介等を行っています。

また、10月には出産適齢期の女性を対象に母子感染予防啓発ワークショップを実施しました。エイズの基礎的な知識を学び、特に母子感染について学ぶことで、子どもへのHIV感染を予防することが目的です。ワークショップには15名が参加しました。

WORKCAMP

ケニア、ウガンダでワークキャンプを実施

ワークキャンプ概要

アフリカの現地で、2週間から3週間の合宿型ボランティアプログラムです。日本からのボランティアとアフリカ現地からのボランティアを受け入れています。ボランティアはプラスの事業地で建設や農作業、エイズ啓発の広報活動などに従事します。



Uganda 夏



2008年9月4日から19日の16日間にわたってウガンダワークキャンプが開催され、15人の日本人ボランティアが参加しました。ウガンダ共和国ルウェロ県のBMTC小学校で、初の開催となり、新規教室の建設、エイズ啓発ワークショップを行いました。

Uganda 春

2009年2月13日から26日の14日間にわたって、ウガンダワークキャンプが開催されました。ウガンダ共和国ルウェロ県のBMTC小学校で、2回目の開催となりました。おもなプログラムとしては、新規教室の建設、エイズ啓発ワークショップを行いました。



Kenya 春

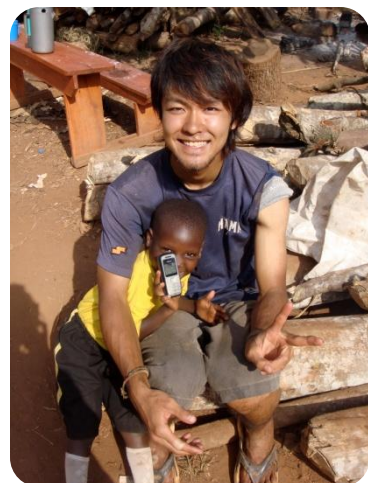


2009年3月8日から24日までの17日間、ケニア共和国シヤ県ウクワラ郡マシワ小学校にて、第3回ケニアワークキャンプを開催しました。2007年末の選挙後の混乱後初めてのワークキャンプの実施となりましたが、地域の方々は温かく参加者を迎えてくれました。3月末の雨季に向けた農作業の補助、そしてHIV/AIDS予防啓発ワークショップを実施しました。

Voice

参加の声

今回のワークキャンプは、2週間という短い時間で、できることは限られており、自分たちの力の小ささを痛感しました。しかし、アフリカという地で自らを振り返り、自分に何ができるのか、考える機会になりました。また、アフリカの子どもたちの無垢な優しさなどから、気づかされることも多々ありました。貧しさの中でも、笑顔で毎日夢を持って生きている子どもたちのために、日本に帰って自分たちができることをしていきたいという決心をもって帰ってきました。「夢のような経験だった」のではなく、現在進行中の現実としてアフリカで見てきたこと、感じたこと、学んだことを多くの人に伝えることができればと考えています。
(ケニアワークキャンプ2009春キャンプリーダー 服部薫)



世界エイズ孤児デーキャンペーン

5月7日の世界エイズ孤児デーに合わせてエイズ孤児を知ってもらい、支援につなげるための啓発キャンペーン

キャンペーン概要

無関心層への積極的なアプローチをするとともに、エイズ孤児について知った後、何かしらのアクションを起こしてもらえるよう働きかけを行いました。この2点をつなぐために、イベントや講演会、署名運動など、それぞれ企画によってターゲットやコンセプトを個別に設定しました。



Event



Moving Africa

5月24日、渋谷Q-AXシネマにて、ドキュメンタリー&トークショー「Moving Africaーアフリカの真実ー」を行いました。ケニアのストリートチルドレンの日常生活を記録した映像の上映と、監督小林茂氏、タレントのオスマン・サンコンさん、城咲仁さん、司会に武村喜世子さんを迎えてのトークショーを開催しました。

Gallery

表参道ヒルズ写真展

5月16日～25日の間、写真展「孤児たちの今」を開催しました。これまで関心のなかった人にこそ、エイズ孤児の現状を知ってほしいと企画したこの写真展は、多くの若者が訪れる表参道ヒルズIdea framesギャラリーにて行われました。



For Action

関心層へのアプローチ ～考えることからACTIONへ

エイズ孤児のストーリーを含んだ、キャンペーン映像を作成し、多くの人に視聴頂きました。また、キャンペーンホームページを設置し、エイズ孤児についての基本情報や映像、「あなたにできること10」、イベント情報などを掲載。インターネットを通じた国際署名も実施し、2507名の署名が集まり、世界のリーダーにエイズ孤児支援を重要課題であると働きかけました。2008年5月7日、世界銀行情報センターと、「エイズに遺された子どもたちの今～ユースが切り開くエイズ孤児支援」を共催し、学生、NGOや企業関係者などが参加。満員となりました。

2008年度のメディア掲載歴

- 2008年5月28日 oh my news に当会主催ドキュメンタリー&トークショー「Moving Africaーアフリカの真実ー」について掲載されています。
- 5月30日18:10～19:00に放送されるNHKの「首都圏ネットワーク」にて、『アフリカ開発会議(3)「エイズ孤児支援の若者たち」』として、7分ほど取り上げられました。
- 慶應義塾大学内で発行されている学生新聞「慶應義塾新聞」の6月11日の紙面で、5月24日に実施したイベント「Moving Africaーアフリカの真実ー」や、当会の活動全般について紹介されました。
- 2008年11月27日 東京新聞にてレッドリボンフットボールプロジェクトのチャリティオークションが取り上げられました。
- 2008年12月2日FM FUJIの番組「SUPER TODAY FUJI」で「レッドリボンフットボールプロジェクト」が紹介されました。
- 2008年12月 「Web Sportiva Blog」で「レッドリボンフットボールプロジェクト」が紹介されました。
- 2008年12月 「ハヤブサマガジン」で「レッドリボンフットボールプロジェクト」がコンテンツとしてUPされました。
- 2008年12月15日 「フットサルナビ」にレッドリボンにてレッドリボンフットボールプロジェクトが取り上げられました。
- 2009年1月26日、中国新聞が発行する子ども新聞「ひろしま国 10代がつくる平和新聞」にエイズ孤児についての記事が掲載され、当会スタッフの服部のインタビューが掲載されました。
- 2009年3月12日 オルタナ別冊「天職ガイド」に当会の求人情報と加藤と門田のインタビューが掲載されました。

世界エイズデー レッドリボンフットボールプロジェクト

5月7日の世界エイズ孤児デーに合わせて
啓発キャンペーン

キャンペーン概要

レッドリボンオリジナルフットボールを制作し、
チャリティで販売。著名人の協力を得て、サ
イン入りオリジナルボールなどをオークション
に出品しました。また、日本で啓発フットサル
大会を開催し、多くの人にエイズ孤児につい
て知らせました。



Event



チャリティフットサル大会

2008年11月30日、南町田インドア球's倶楽部にてチャリ
ティフットサル大会を開催、約90名が参加しました。フット
ボールを入口にエイズ孤児を知り、「フットボールの可能性」
を感じてほしいと、大会とエイズ啓発のトークショーを併
催。トークショーゲストには風間八宏さん、相原豊さんを迎
えました。

Auction

チャリティオークションを実施
11月28日～1月14日にオー
クションを実施し、多くの著
名人の方々に私物やサイン
入りレッドリボンオリジナル
ボールを提供いただきました。
収益は46万7869円となりました。

Products

オリジナルフットサルボール
制作
プロジェクト
オリジナル
限定レッドリボン
ボールを100個
制作。



その他の国内での取り組み

●イベント・勉強会

- ・アフリカエイズ孤児の未来を作るチャリティーコンサート 7月13日、求道会館(本郷)にて実施。
- ・PLAS写真展「アフリカのエイズ孤児」 2008年6月30日～7月18日、世界銀行情報センターにて共催。
- ・サポーター交流会『PLAS+(プラスプラス)』 8月24日(日)、10月25日(土)、事務所にて開催。
- ・勉強会「ケニアにおける学校教育の中でのエイズ教育」 8月20日(水)事務所にて実施。
- ・チャリティ・グラスハーモニカコンサート 2009年3月14日(土)、芸術家の家(目黒)にて開催。
- ・チャリティ無声映画鑑賞会のご案内 2009年3月15日(日)、芸術家の家(目黒)にて開催。
- ・ケニア事業報告会 2009年2月22日(日)、JICA地球ひろば(広尾)にて開催。

●イベント出展

- ・5月17日(土)、5月18日(日)に行われたアフリカンフェスタ2008に出展。
- ・10月4日(土)、10月5日(日) グローバルフェスタに出展。(写真)

●ウェブサイト

- ・デザインも生まれ変わり、より見やすい、魅力的なサイトとなって
8月にホームページがリニューアルされました。
- ・エイズ孤児やエイズについての文献が検索できるデータベースも設置しました。
- ・9月にプラス携帯サイトが誕生しました。



組織 運営

支援者の拡大と組織基盤の強化

2008年度は、支援者や支援団体が増え、躍進の年となりました。

支援者の 拡大

2つのキャンペーン事業やチャリティコンサートなどを通じて、新たにプラスを知ってくださる方が増え、支援者も少しずつ増えてきました。

会員制度の 開始



4月より、会員制度を開始し、エイズ孤児サポーターとエイズ孤児マンスリーサポーター制度を設置しました。

(写真) マンスリーサポーターチラシ。

企業との 連携



国内事業の拡大に合わせて、企業との連携を始めました。寄付だけでなく、企業活動を通じた支援や広報協力、場所の提供など、様々なご支援を頂いています。また、共同でチャリティオリジナル商品を開発し、販売するなどの新しい取り組みも始めました。

(写真) アイデアインターナショナルの協力によりエコ・ポケ・マイ箸を販売。

助成金 実績

- (特)国際協力NGOセンター(JANIC)様と(財)庭野平和財団様の共同事業である「国際協力NGO次世代リーダー育成事業」より、2008年度、2009年度の2年間にわたり、計200万円の助成。
- (財)国際コミュニケーション基金様より、インターネットを利用した実用的なアフリカのエイズ、エイズ孤児情報の発信事業費として、2008年4月から10月までの期間、計74万円の社会的・文化的諸活動助成。
- 株式会社ラッシュジャパン様よりウガンダ共和国ルウェロ事業に対し、100万円の助成。
- Body Shop様ザ・ボディショップニッポン基金より30万円の助成。

人材の確保 と育成

4月より国内専従スタッフとして門田瑠衣子を雇用。また、7月より現地駐在員として谷澤明日香を雇用。

科目	2008年予算	2008年決算	達成率
収入の部			
1. 事業収入	3,290,000	4,805,470	146%
2. 会費収入	900,000	516,000	57%
3. 助成金・補助金	2,740,000	3,521,851	129%
4. 寄付	1,280,000	2,718,621	212%
当期収入合計	8,210,000	11,561,942	141%
前年度繰越金	2,231,384	2,321,360	104%
収入合計	10,441,384	13,883,302	133%
支出の部			
1. 管理費	2076250	2,237,562	108%
事務所維持管理費		206,433	
通信費		96,355	
印刷費		87,153	
広報費		58,490	
備品購入費		22,003	
消耗品購入費		107,747	
人件費		1,511,180	
会場代		8,750	
会議費		1,050	
交通費		87,340	
人材育成費		5,000	
手数料		16,061	
会費		30,000	
2. 事業費	5,102,620	5,141,827	101%
国内事業費	1,932,000	2,218,560	115%
ウガンダ事業費	788,668	707,674	90%
ケニア事業費	616,952	952,681	154%
キャンプ事業	1,765,000	1,262,912	72%
3. 雑費	0	6,516	0%
当期支出合計	7,178,870	7,385,905	103%
当期収支差額	1,031,130	4,176,037	405%
前年度繰越金	2,321,360	2,321,360	100%
次期繰越収支差額	3,262,514	6,497,397	199%

エイズ孤児支援NGO・PLAS

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-14-58クリエイト目黒2A

TEL/FAX 050-3627-0271 info@plas-aids.org

www.plas-aids.org/